

藝 林

GEI RIN

第五十三卷 第一号

平成十六年四月

凡そ大小を問はず、古今を論ぜず、物皆の本質に徹し、人々の個性をつかむといふ事は、凡智淺慮のよくするところでは無い。その爲には先づ己の心を深めなければならぬ。しかも己が心を深めるといふは、決してなまやさしい事では無い。それは淺智を打ち、俗情をたゞき、心中一切の不純を除却し去つて、初めて可能である。

平泉 澄（『芭蕉の佛』）